

- 1-① インフラの予防保全・長寿命化、集約・再編
- 1-② DX、AI、新技術の活用
- 1-③ 分野横断型・広域型のスキームの導入
- 1-④ 自治体職員技術継承

【実施主体】第一コンサルタンツ、日本大学工学部、東京大学 共同提案体

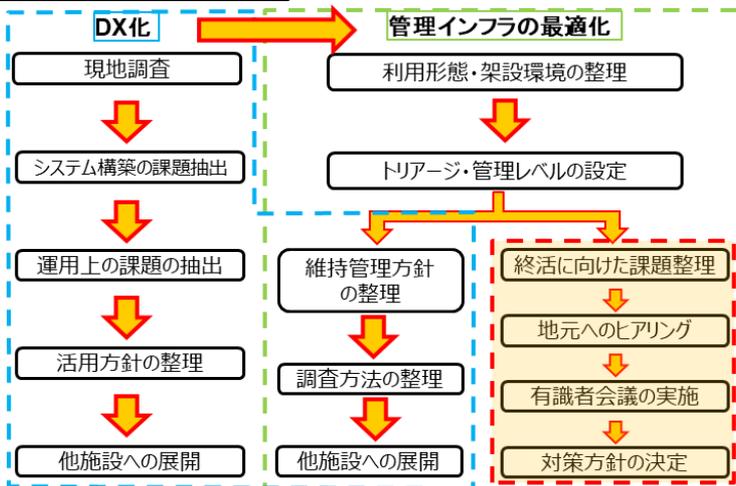
過疎が進む小規模自治体におけるインフラの簡易管理から終活に向けた対策提言と実践（導入検討先自治体：大豊町）

### ①調査概要

本調査は、大豊町が管理する橋梁に対し、将来的な人口減少や高齢化の進行を背景に、持続可能かつ合理的な維持管理体制の構築を目的として実施するものである。現行の法定点検成果が十分に活用されていない現状を踏まえ、DX技術であるInfraWalkプラットフォームを試行運用し、情報整備及び一元的な管理環境を整備することで、点検成果の効果的な利活用を図る。

また、橋梁ごとの利用実態や架設環境をもとに、管理レベルを設定し、補修の優先順位や終活を含む施設方針の再整理を行う。さらに、地元住民や関係者との意見交換、有識者の知見も取り入れながら、現場ニーズと地域特性に即した最適な管理手法の検討を進め、他施設への展開を視野に入れた維持管理モデルの構築を目指す。

### ②実施方針・フロー



### ③自治体概要

【大豊町の人口・面積・立地】

人口：2960人（内65歳以上1798人(61%)）※R6.12月時点  
面積：315.06km<sup>2</sup> 四国地方中央部 高知県北部

【対象となる施設】

道路橋：310橋

【課題】

橋梁310橋を管理しているが、人口減少と高齢化（高齢化率61%）が進行しており、持続可能な維持管理が課題である。法定点検調書の活用も不十分であり、成果の有効活用が求められている。

今後は管理レベルの設定や橋梁の集約・撤去、診断手法の見直しなど、合理的な管理手法の導入が必要である。

### ④スキームの概要

【課題①】点検成果の効果的な活用

- ・試行的に実施予定の道路橋において、システム構築上の課題及び運用上の課題抽出を行う。
- ・抽出された課題を基に、効率的・効果的な実施方針を策定する。
- ・上記取り組みを他施設へ展開し、分野横断的な維持管理を目指す。



【課題②】管理インフラの最適化

- ・地域情勢や劣化程度など総合的に評価を行い維持管理レベルを設定するトリアージを行う。
- ・管理レベルに応じた維持管理計画を策定し、合理的な維持管理を目指す。
- ・撤去が必要な施設を抽出し、現行制度や技術的課題の整理、地元との合意形成までプロセス全体を提言・実践する終活を行う。

